

性感染症（STD）

STDの感染のピークは、女性が20代前半、男性が20代後半です。

STDとは

STD（Sexually Transmitted Diseases）とは、性感染症のことを言い、主に性行為によってウイルスや細菌が感染して起きる病気です。その種類は多く、症状もさまざまです。STDの患者数は年間60万人にのぼり、年々増加傾向にあります。もはや、性感染症は特定の人にしかかからない特別な病気ではありません。

しかし、STDに関しては、誤った情報が流れやすく、正しい情報が伝わりにくいという状況でもあります。予防方法など病気に対する正しい知識を積極的に入手し、自分や相手の身を守ることを勧めます。

症状

男性の場合は、排尿時に痛みを感じたり、うみが出たりします。女性の場合はおりものの量が増えたり、状態が変わったりします。それ以外にも皮膚にイボやしこりができるなど、さまざまな症状が出ますが、最近では性器クラミジア感染症など自覚症状の出にくい病気も増えてきています。ほとんどの場合、STDは治療により完治しますが（ただしHIVは現在のところ完全に治療する方法はありません）、放置しておくとも命にかかわる場合もありますので、感染の可能性があるときは恥ずかしながら、すぐに専門医に相談してください。

いずれにせよ、おかしいと思ったら早く病院へ行って治療することが大切です。

予防

一番確実な予防法は性交渉をしないということですが、将来家庭を築く上で現実的ではありませんので、パートナーを限定する（2人とも感染していないということが絶対条件ですが）ことです。また、コンドームの使用も有効な予防方法ではありますが、100%確実とは言い切れません。

AIDS

AIDS（Acquired Immune Deficiency Syndrome）は、正式名称を「後天性免疫不全症候群」と言い、主に性行為によってHIV（Human Immunodeficiency Virus）「ヒト免疫不全ウイルス」に感染し、体内の抵抗力が低下し、さまざまな感染症や悪性腫瘍を引き起こす病気の総称のことです。2008年末で、世界で3,340万人がHIVに感染しています。

日本では2008年末でHIV感染者は年間1,126人で累計10,552人となっています。特に若者を中心に感染が広がり2008年までの累計では、国内のHIV感染者の30.9%が20～29歳の若者です。

近年、治療法の発達により、完全なウイルスの排除はできないものの、発症をおさえる薬は開発されています。いずれにしても早期発見、早期治療がとても大切です。